

東京からの質問に対する回答 (その3)

問い：日本は昨年(2011)大きな震災を体験して、大変な原発事故が発生しました。それ以来、世界中で、原子力発電所が原因で起きる問題に関する議論が続いています。原発問題に関する博士のお考えをお聞かせいただけないでしょうか？

問い：(上の問題に関連して)日本では、一般市民は、原発反対の署名を集めるキャンペーンや、原発反対のデモ等に参加しています。核の脅威から解放されるために、「節制のプログラム」以外に、何か、私たちが日常生活の中でできるアイデアがあれば、提案いただけないでしょうか？

回答：この二つの質問を合わせた形で、お答えしてみようと思います。まず、初めの問いから始めましょう。

これは興味深く、かつ重要な質問です。また私は、核エネルギーに関して、特別な興味を持っています。というのも、私は30年以上にわたって、インドの核エネルギー省が設置した様々な研究所で働いて来たからです。そしてなによりも、私は実際に、原子力発電所と密接に関係して仕事をしてきた経験を持っています。

最初に、原子力発電所では、どのようにして電気を発生させるのかを理解しましょう。ほとんどすべての発電所において、二段階のプロセスを経て電力を発生させています。最初の段階は非常に大量の熱を発生させることです。次に、この熱が蒸気を発生させるために使われて、この蒸気が発電機につながるタービンを回します。この発電機が電気を発生させ、そこで生じた電気が電気回線を通して消費者に届くのです。

さて、熱を発生させる方法は、従来、(1)石炭を燃やすことと、(2)石油やガスを燃やすことでした。いずれの場合も、燃焼は原子のレベルで生じて、これが熱の発生につながっています。

原子炉の中では、継続的に核分裂のプロセスが進行することによって膨大な量のエネルギーが放出されており、その大部分は熱として現れます。そしてその熱が、通常のように、蒸気を発生させるために使われています。

ここで、いくつかの点を確認しておく必要があります。

石炭や石油・ガスによって燃焼が賄われる発電所は、毎日何トンもの燃料を必要としますが、原子力発電所においては、一度ウラニウムを搭載すると、数か月間は燃料を補給する必要がありません。言い換えれば、1トンのウラニウムは、何千トンもの石炭と同じだけの熱を発生させることが出来るので、これは非常に利点となります。

石炭を燃やした時に残る灰のように、核の燃焼は「核の灰」とも呼べる物質を残します。専門的には、これは核廃棄物と呼ばれています。この核廃棄物は、非常に高度な放射性物質であり、それを処分することは、多くの国にとって、長期的な大きな頭痛の種の一つとなっています。よく知りませんが、日本は核廃棄物の一部を、ウラニウムを売っている国に送り返しているのではないかと思います。これは、安全のためでもあるのです。

ほとんどの国々は、核廃棄物の長期的な貯蔵という問題から逃げて来ました。米国だけが、積極的な計画を立て始めましたが、その途中で色々と遅れが生じて、今は完全な混沌に陥って、計画立案の経費は莫大な額になっています。元々は、すべての廃棄物は、ネヴァダ州の

ユッカ山系の奥深くに埋められる予定でした。最近になって、ネヴァダ州は連邦政府に、「どこかよそに入ってこれを埋めてください！ 我々の州をゴミ捨て場として使うことはしないでください」と主張しています。つまり、たとえ原子炉が安全に運転できたとしても、長期的に廃棄物をどうするかは、非常に大きな問題なのです。

ところで、石炭を燃やせば、何千トンもの灰が残り、それを処分することも問題なのです。米国では、灰の処理を誤った大きな事故が何件か起きています。石油を燃やす発電所では、灰は残りません。しかし、石炭を焚くか石油を燃やすかの違いに関係なく、両者に共通する大きな問題があります。どちらも、多量の二酸化炭素を発生させるのです。現在、大気中には、二酸化炭素が過剰に存在しています。二酸化炭素の含有量は、350ppmが限界とされていますが、実際はすでに390ppmに達しています。ですから、気候の変動や、異常気象、等々の警鐘が鳴らされているわけです。このような事態に至っても、ほとんどの国々において、二酸化炭素の排出を制限する取り組みは遅々として進んでいませんが、太平洋の島々や、セーシェル諸島や、バングラデシュまでも、海面の上昇を心配しています！

こうしたことは我々に何を教えているのでしょうか？ 米国人の言うように、ただで食べられるランチはない、ということです！ 言い換えれば、すべての選択肢にそれぞれの値札が付いているのです。これは実に、科学技術全体について言えることです。風力発電を取り上げてみましょう。

現在デンマークは、大規模な風力発電の技術の開発に非常な成功を収めており、風車を使って、かなりの電力を生産しています。ドイツも同じです。これは皆、素晴らしいことです。でも、皆さんはこれらの風車がどれくらい大きなものかご存知ですか？ そして、何万台もの風車が設置されているところでは、たくさんの鳥が死んでいることをご存知ですか？

水力発電はどうでしょう？ その最大のものは、中国のTGDダムです。これは素晴らしい科学技術の成果であると称賛されています。そして確かに、このダムは大量の電力を供給しています。しかしながら人々は、自然は常に代価を支払わせるものであることを忘れていません。TGDダムの場合、ダムの後ろに巨大な湖が創られて、そのために、多くの化学工場と共に、いくつもの都市が湖の底に沈みました。そして、湖の底に沈んだ全部の化学工場が、膨大な量の水を汚染しています。そして、よほど注意しない限り、時と共に、ダムの後ろの湖にはシルト（粘土よりも一回り大きな砂粒）が積もって、堆積物がつもるようになります。そうすると、湖が浅くなって、以前のように湖から水を引くことが難しくなります。また、ダム湖の水の保有量が減少すると、洪水の問題が発生します。

これは、欲望に上限を設けること（節制のプログラム）以外に、何が出来るかという、次の質問（問い#10）につながります。これは非常に良い質問です。

非常な儉約家のことを考えて見ましょう。彼はお金を借りることはせず、不要な出費もしません。なぜかと言えば、(1) 彼は借金することが嫌いで、(2) 将来に備えて貯蓄をしたいからです。これは熟慮の上のことであり、良い習慣です。次に、お金を出して酒を飲むことをしない人のことを考えて見ましょう。なぜかと言えば、彼は、飲酒は習慣となって、それが原因で命を落とす危険があることを知っているからです。これは、注意深さの表れです。両方の場合において、自分で自分に課した欲望を規制する規律があります。一部の人々は、このような精神で欲望に上限を設けること（COD: Ceiling On Desire = 節制のプログラム）を実践します。時には、一つの国全体がこのような取り組みをすることもあります。西洋に住む多くの人々は、環境のことを心配して、自発的にエネルギーの消費量を抑えています。ここでは、共通の善のために、欲望に上限を設けること（COD）が実践されています。

スワミの御教えに関して言えば、上記の取り組みとは根本的に異なっています。スワミは、「皆さんは、肉体と心を持っていますが、皆さんの内には、より根本的な者があります。それが真我（アトマ）、すなわち永遠の魂です。欲望は肉体と心につながっています。皆さんが欲望に負けることは、本当の自分が存在している真我（アトマ）を無視して、心身複合体（肉体と心の組み合わせ）に屈服したということです。こうして心身複合体に負けるようでは、皆さんは、霊性の道を歩いているとは言えません。一方、もし皆さんが、自分の要求を、最低限必要なものに留めるならば、霊性の道をかなり遠くまで進む可能性が高くなります。もし非常に多くの人々がこれを実践したならば、自動的に、社会全体にとっても、環境にとっても、有益な影響が生じることでしょう。

要約すると、私たちは、ただ単にお金その他を節約するためだけでなく、一つの重要な霊性修行として、節制のプログラム（COD）を実践しなければならないのです。もしその人が欲望に捕まってしまうと、どれほどたくさん御名やマントラ等を唱えたりしたところで効果はありません。それこそが、ラーヴァナの物語が私たちに教えていることです。ラーヴァナはシヴァ神の偉大で熱心な帰依者でありました。しかしながら、彼は欲望のとりこになってしまい、それが彼の破滅を招いたのです。食欲は、欲望のもう一つの表れです。それもまた、最終的には完全な破滅につながります。ですから、もし欲望に上限を設けること（COD）が外されていれば、霊性修行の話をしていても意味がないのです！

問い：このところの世界情勢は非常に悪くなっています。特に最近、様々な状況の悪化が加速しているように見受けられます。先生は、世界情勢をどのようにご覧になっていらっしゃいますか？ また、私たちサイの帰依者は、どのように考え、行動するべきだと思いですか？ なにか推奨できるアイデアをお持ちでしょうか？

回答：確かに、現在の情勢はあまり良いとは言えません。しかしながら、それは、善い人がいないということではありません。善い人々はたくさんおり、その多くが実際に素晴らしい働きをしています。たとえば、私は、日本でそういう方々をたくさん見かけました！ ですから、私たちは最初から、ある程度の「元金」を持っているのです。

ここで、二つのことが必要になります。それは、(1) よい人々の数を何倍にも増やしていくことと、(2) これらの人々が集散的に働いて、お互いを強化し合うことが出来る方式を生み出すことです。サイの帰依者たちは、この両方の役割を果たすことが出来ます。

多くの人々が、帰依者は周囲のことを気にかけずに、自分たちのサークルの中で、自分のことをしなければならぬと考えています。確かに、ある種の活動に関する限り、これがあべき姿です。たとえば、バジヤンを歌うことについて言えばその通りです。しかしながら、そのような考え方で私たちの思考と行動を制限するべきではありません。

たとえば、一人の帰依者が公立学校で教職に携わっているとします。もしその教師が、スワミの恩寵によってやる気が起きたとすれば、人格形成を学校の目標の重要な側面とするために、多大な貢献ができるでしょう。学校はまた、子供たちがエネルギーを保存することや、出来るだけエネルギーを使わない方法などを学ぶ意欲を持つのを助けることが出来るでしょう。これは、国全体を助けることでしょう。なぜなら、日本は石油を輸入しなければならず、その輸入の費用を低減することが出来るからです。また、子供たちが、両親のお世話をする気持ちを持つように促すことなども出来るでしょう。こうしたことは、どれも日本にとって目新しいことではありません！ しかし、今の時代が、人々に太古からの価値観を忘れさせています。私はただ、善意とやる気を持った教師が、学校全体に大きな変化をもたらすこと

が出来ると言っているだけです。そのうちに、他の学校がこの学校を見習ったりして、こうした態度が広がる事が出来ます。医師、ジャーナリスト、弁護士等々、様々な職業に就いている人々が、同様の变化をもたらす事が出来るでしょう。もし私たちが真剣に考えさえすれば、いつでも、すべてを愛しすべてに奉仕することが出来るはずで

分かりやすく言えば、私たちは、点をつなぐ鉛筆になろうと努めなければならないのです。一本の線は、バラバラに存在する点とは明らかに異なります。ますます多くのこうした線が次々に引かれて行けば、そこにネットワークが生まれ、善を広げ、善を維持することが格段に容易になります。

たとえて言えば、私たちは、ヴァイオリンのソロの演奏者として衝撃を与えることも出来ますが、オーケストラに加わって、そこでヴァイオリンを演奏することもできます。演奏はそれの方がはるかに容易ですが、それでも、オーケストラはみんなが集まって一緒に演奏するために、大きな衝撃を与えることが出来るのです！